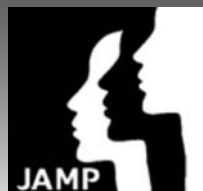


2017年6月1日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 25

Maxillofacial Prosthetics

発行人 鱒見進一

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

委員会トピックス

時流に即した「顎顔面補綴学」の確立を



学術委員会委員長 小山 重人

顎顔面補綴学会会員の皆様、平素は格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。私は学術委員会を担当していますが、学術委員会の最も重要な活動の一つが教育研修会の企画準備・実施になっています。教育研修会も本年度で22回目を迎え、当初は顎顔面補綴治療を志す若い先生方を対象と考えられていたようですが、最近は我々が今、取り上げなければならない課題をベテランの先生方とともに検討する重要なプログラムに変貌しつつあります。もちろん基本手技を確認する企

画も重要ですが、特別講演は企画されても、シンポジウム等のプログラムがない本学術大会においては、付随して実施される教育研修会が「顎顔面補綴学会が目指すべき方向のコンセンサス形成の場」と位置付けられつつあるとも言えるでしょう。その貴重な講演内容を顎顔面補綴誌において単なる講演抄録ではなく、最近はページ数を増やすなどの充実を図っていますが、今後は依頼論文のような形で成果を掲載していくことを考えています。

日本の医療水準の向上に伴い、顎顔面補綴治療には周術期からリハビリテーション治療まで、すなわち始動から機能回復を目的にした最終ゴールを見据えた医療の実施および関連部局との連携が求められています。また、デジタルデンティストリーも目前に迫っています。このように顎顔面補綴学会を取り巻く環境も確実に変化しているなか、取り扱う患者の特殊性を隠れ蓑にすることなく、旧来の治療からのイノベーションが必要です。

学術委員会には、他にも多施設共同研究の実施など期待される任務は多々ありますが、皆様のご協力を頂きながら、時流に則した「顎顔面補綴学」の確立に寄与していく所存ですので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

2016 年度優秀論文賞受賞者の声



吉 志 元

東京医科歯科大学
大学院医歯学総合研究科
顎顔面頭頸部機能再建学系
顎顔面機能修復学講座
顎顔面補綴学分野

The Morphological Evaluation of Denture Space in Glossectomy Patients
顎顔面補綴 39 (2) : 30-37

この度は、2016 年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞という栄えある賞を頂き、ありがとうございます。丁寧な査読とアドバイスを頂いた先生方、編集委員会の先生方に心より御礼申し上げます。

本論文の内容は、私の大学院での研究テーマでしたが、実際の患者からデータを計測するにあたり、多数の準備ステップが必要であったため、苦難が多く難航続きでした。しかし、研究に御協力頂いた患者さんは皆様優しく、感謝しながら研究が継続できました。そして、谷口尚教授、隅田由香先生、ならびに医局の先生方の御指導を賜り、最終的にこのような論文の形にすることができ御礼申し上げます。

本研究では、舌欠損を有する無歯顎患者のデンチャースペースを計測し、下顎全部床義歯の人工歯排列位置と床形態が通常の無歯顎患者と異なる事象を示すことにチャレンジしました。実際の臨床の場では、顎堤の欠損が無く舌のみ欠損の症例では、顎堤頂の位置に基づく人工歯排列を行う事があると思いますが、義歯が安定しない場合があります。義歯形態の評価方法として、デンチャースペース計測を行うことが有効ではないかと考え、本研究がスタートしました。今後、本研究が、顎顔面補綴治療が必要な様々な無歯顎患者において、デンチャースペースの重要性を示すエビデンスの一つになれることを願っています。

最後に、各先生方に御礼と共に、本学会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

2016 年度若手研究者短期海外研修報告

1. 目的：顎顔面補綴学の発展に寄与する国際的・学際的な研究者の育成
2. 研修期間：2016 年 11 月 14 日～16 日
3. 研修施設：University of California, San Francisco Dental and Medical Center, Maxillofacial Prosthetics, Prof. Arun B Sharma
4. 参加者：隅田由香（コーディネーター）、秦 正樹、津田尚吾、原口美穂子（オブザーバー）

5. 研修内容

1) 顎顔面補綴学に関する抄読会への参加
レジデントと共にテーマ“Implant-Connecting to Natural Teeth”の関連論文を抄読した。事前配布の論文リスト（19 編）のうち 6 編について、天然歯と連結した際の支台歯や implant の変化などについて討論した。

2) 顎顔面補綴治療、歯科補綴治療の見学

上顎歯肉癌術後患者に対する閉鎖床の製作、金属床顎義歯の製作、口唇口蓋裂患者の治療方法についての説明、術前患者のシーネ製作、implant overdenture 症例、implant 症例を見学した。

3) 頭頸部カンファレンスへの参加

頭頸部外科医、病理医、放射線科医、顎顔面補綴医、看護師による術前カンファレンスに参加した。担当医が病状、治療方針を説明し、病理医は切片より病理組織像を、放射線科医は CT 像を用いて病状の説明を行った。顎顔面補綴医は術後の機能回復という観点から意見を述べた。全部で 20 症例について検討した。

4) 症例検討会への参加

歯科補綴医、歯科矯正医による前歯部開咬症例と下顎前歯部歯肉退縮症例の 2 症例の症例検討会に参加した。Sharma 教授の指導のもと、診査、診断、治療方針について検討を行った。

5) 各 lecture への参加

Biomaterial, Oncology, Speech, Implant に関するレジデント向けの lecture に参加し、米国での最新情報、研究課題、基本的知識を学んだ。

6) “Klein Lab” の見学

Sharma 教授の配慮により Ophir Klein 先生の Lab を見学した。幹細胞を用いた研究、歯の発生に関する研究、幹細胞のセミナーに参加した。

若手研究者短期海外研修に参加して



秦 正樹

愛知学院大学歯学部
有床義歯学講座

2016 年 11 月 14 日から 3 日間、アメリカ・カリフォルニア州の University of California, San Francisco Dental Center において Arun Sharma 教授のもと、研修に参加しました。留学経験はなく、海外学会への参加の経験もわずかなため、今回応募するにあたり、研修についていくことへの不安な気持ちを持っていました。同時に今持っていない何かを得ることができるかもという期待もありました。

そうした不安と期待の中、初日の朝の抄読会で洗礼を受けました。一つ一つの論文について Sharma 先生と真剣な討議。まわりの先生も意見し、飛び交う英語を無我夢中で追っていました。自分の番が来るまでの緊張感は生きた心地がしなかったですが、開始 2 時間で終了となり、正直ホッとしました。その後も外来見学やセミナー、カンファレンスなど、常に英語に対する緊張感を持ちながら過ごしましたが、研修が終わる頃には少しですがコミュニケーションをとることができ、成長を感じることができました。

このたび、このような機会を与えてくださいました、鱒見理事長、特命委員会の谷口委員、国際交流委員会の尾澤委員長をはじめ、関係者の方々に深く御礼申し上げます。



研修中、Sharma 教授（中央）とともに



津田 尚吾

九州歯科大学
顎口腔欠損再構築学分野

2016 年 11 月 14 ～ 16 日、UCSF 顎顔面補綴科で研修させて戴きました。研修はもちろん国際学会の参加も未経験の私は、出国時は実感が湧かなかったものの、現地に近づくにつれ不安と期待が高まりました。研修先の Sharma 教授はとても責任感が強く、私たちのために綿密なプログラムを組んで下さり、本当に感謝しています。抄読会での論文数の多さ、レジデントとともに受けた講義内容、熱気に満ちた中での各診療科ドクターによるカンファレンス、洗練された病院施設のデザインなど、私にとってはそのどれもが新鮮で衝撃を受けました。研修に同行して戴いた隅田先生はじめとする先生方に終始頼りきりでしたが、無事終わり安堵しております。今回の経験を、今後の臨床、研究、学会活動に生かせればと思います。

最後に国際交流委員会ならびに会員の先生方に感謝するとともに、このような素晴らしい制度が今後も継続されることを祈念しています。



研修後の憩いのひととき

診療トピックス

新たに保険収載された「手術直後に装着する顎義歯（ISO）の適用」に関して、医療委員会では以下の通り「算定の流れ」を作成しました。

術後即時顎補綴装置算定の流れ

病名：上顎右側歯肉癌、上顎右側顎欠損、7-1 MT
床副子フテキ、床副子ハセツ

月日	病名	療法・処置	点数
5/10 (外来処置)	上顎右側歯肉癌	再診 口腔外科より、術後即時顎補綴装置の製作依頼。上顎右側に歯肉癌を認める。 印象採得（アルジネートおよびコンパウンド） 咬合採得（シリコーンバイト）	(再診料) 228点 185点
5/17		口腔外科にて上顎右側歯肉癌切除（全身麻酔下） 術後即時顎補綴装置 装置料 * 1 装着料 * 1	2000点 300点
5/24 (入院処置)	上顎右側歯肉癌 上顎右側顎欠損 7-1 MT	修理（欠損部に対し、粘膜安定材、軟質裏装材や即時重合レジンなどにて検査子形態を付与）	234点
5/31 (入院処置)	上顎右側歯肉癌 上顎右側顎欠損 床副子フテキ	欠損部、後方に潰瘍を認める。 カーバイトバーにて該当部分、検査子部分を削合。 着脱方向について確認。 * 2	220点
6/7 (外来処置)	上顎右側歯肉癌 上顎右側顎欠損 床副子フテキ	再診 調整（カーバイトバーにて該当部分、検査子部分を削合調整） * 3, 4	(再診料) 220点

- * 1: 手術日に算定しなかった場合、後日退院までに算定を行う。
別日になった場合は、カルテにオベリなど記載をする。
- * 2 術後即時顎補綴装置を装着し、切除後の顎欠損に合わせて修理を算定する。
- * 3 装置を装着した翌月から、調整または修理を月1回算定できる。
- * 4 床副子ハセツ 病名により 修理 234点(1017-2 2)の算定も可能

上記は同一病院 口腔外科→補綴科、顎補綴科の一例であり、連携体制や診療行為により算定は異なる。

日本顎顔面補綴学会医療委員会2016年10月作成。
本資料の無断掲載および部分転載を禁ずる。

学会ホームページ、「資料・マニュアル」のページに掲載していますので、ご参照ください。

関連学会報告

第61回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会

2016年11月25日～27日の日程で、第61回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会が、日本歯科大学生命歯学部・又賀泉会長により、千葉・幕張メッセで盛大に行われた。

われわれ日本顎顔面補綴学会は、学際連携委員会・医療委員会・理事会企画である「保険収載された、上顎顎欠損症例に対するISO（Immediate Surgical Obturator）と顎補綴の臨床」をミニレクチャーにて開催した。演者は本学会理事でもあり、日本口腔外科学会学術大会の常連である日本大学



大山哲生先生と講演の様子

歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座・大山哲生先生にお願いした。医療委員会・隅田先生の保険関連の資料を織り交ぜながら、外科・補綴の分業化が進んだ若い世代の口腔外科医にとっては目からウロコの「ISO から顎補綴への移行とその臨床」を、たくさん症例から解説していただいた。学際連携委員長の高橋哲先生もはせ参じ、第34回日本顎顔面補綴学会大会長の米原啓之先生もご参加された。

会場はほぼ満員で、参加者は「もっと若い人たちを誘って来ればよかった」と口々におっしゃっていた。もちろん、今年の京都で行われる第62回総会でもエントリーする予定である。

会場では参加者に顎顔面補綴学会の入会申込書を配布し、第34回顎顔面補綴学会学術大会のビラを配布、スライドでも宣伝したことは言うまでもない。
(広報委員 関谷秀樹)

第18回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会

2016年12月3日、徳島大学蔵本キャンパス内、長井記念ホールにて第18回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会が開催された。「基礎と臨床の融合」をテーマに講演2題、一般口演6題、ポスター発表2題が行われた。ポスター発表は本大会としては初の試みである。



ポスター発表の様様

特別講演は「顎顔面補綴材料を再考する」と題して当学会の会員である河野文昭教授（徳島大学大学院医歯薬研究部 総合診療歯科学分野）がシリコン材料の粘弾性をキーワードにその特性や基礎知識、使用方法と顎補綴患者への応用などを語られ、普段何気なく使用しているシリコン材料への知見が一層深まった。今回は一般口演が少なかったが、技工術式に関するものや診療支援への関わり方など多岐に渡り、歯科技工士も医療知識やデジタル技術といった歯科領域以外の幅広い知識の必要性を感じた。

また翌4日には徳島大学病院の中央技工室を使用してワークショップが開催された。近年恒例となったワークショップだが3回目の今回は実物の1/4程度のシリコン製耳介エピテーゼの製作で、時間の関係から予め用意されたエピテーゼの外部着色から仕上げまでの作業を行なった。

次期第19回学術大会は2017年9月2日、近畿大学東大阪本部キャンパスで開催予定である。

（広報委員 宮本哲郎）



ワークショップ

関連学会のご案内

- 第41回 日本頭頸部癌学会
会 期：2017年6月8日（木）～9日（金）
大会長：大森孝一（京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
会 場：ウェスティン都ホテル京都
問合せ：株式会社コンベンションリンケージ
TEL：075-231-6357 FAX：075-231-6354
E-mail：jshnc41@c-linkage.co.jp
<http://www.c-linkage.co.jp/jshnc41/>

- 第35回 日本顎咬合学会 学術大会・総会
会 期：2017年6月10日（土）～11日（日）
大会長：上濱 正（日本顎咬合学会 理事長）
会 場：東京国際フォーラム
問合せ：第35回学術大会事務局
TEL：03-3261-0474
E-mail：gakujutsu@ago.ac
<http://www.ago.ac/35th/>
- 日本補綴歯科学会 第126回学術大会
会 期：2017年6月30日（金）～7月2日（日）
大会長：大久保力廣（鶴見大学歯学部）
会 場：パシフィコ横浜
問合せ：株式会社日本旅行 ECP 営業部
TEL：03-5402-6401 FAX：03-3437-3944
E-mail：jps_126@nta.co.jp
<http://web.apollon.nta.co.jp/jps126/>
- 第30回 日本顎関節学会総会・学術大会
第22回 日本口腔顔面痛学会学術大会
会 期：2017年7月29日（土）～30日（日）
大会長：小林 馨（鶴見大学歯学部）
大会長：佐々木啓一（東北大学大学院歯学研究科）
会 場：ワークピア横浜
問合せ：株式会社日本旅行 ECP 営業部
TEL：03-5402-6401 FAX：03-3437-3944
E-mail：jstj_30@nta.co.jp
<http://web.apollon.nta.co.jp/jstj30/>
- 第19回 日本口腔顎顔面技工研究会・学術大会
会 期：2017年9月2日（土）
大会長：田光 創（近畿大学医学部附属病院歯科口腔外科）
会 場：近畿大学 東大阪本部キャンパス B 館 201 講義室
問合せ：近畿大学医学部附属病院歯科口腔外科
TEL：072-366-0221（内線）2537
FAX：072-367-9218
E-mail：tamitsu@med.kindai.ac.jp
- 第27回 日本口腔内科学会
第30回 日本口腔診断学会 合同学術大会
会 期：2017年9月8日（金）～9日（土）
大会長：北川善政（北海道大学大学院歯学研究科）
会 場：北海道大学学術交流会館



Newsletter No. 25

Maxillofacial Prosthetics

問合せ：コンベンションワークス

TEL：011-827-7799 FAX：011-827-7769

E-mail：jsom2017@c-work.co.jp

<http://www.c-work.co.jp/jsom2017/>

●第23回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

会期：2017年9月15日(金)～16日(土)

大会長：市村久美子(茨城県立医療大学保健医療学部看護学科)

会場：幕張メッセ

問合せ：オフィス・テイクワン

TEL：052-508-8510 FAX：052-508-8540

E-mail：jsdr2017@cs-oto.com

●第47回 公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会

会期：2017年9月22日(金)～24日(日)

大会長：西郷慶悦((公社)日本口腔インプラント学会東北・北海道支部支部長)

会場：9月22日(金)：仙台サンプラザ

9月23日(土)・24日(日)：仙台国際センター

問合せ：株式会社東北共立

TEL：022-246-2591 FAX：022-249-5618

E-mail：jsoi2017@tohoku-kyoritz.co.jp

<http://www.tohoku-kyoritz.jp/jsoi2017/index.html>

●4th Joint Meeting of the ISMR & AAMP

会期：2017年10月28日(土)～31日(火)

会場：米国・サンフランシスコ

問合せ：RES Seminars

E-mail：ismr-aamp2017@res-inc.com

URL：<http://www.ismr-aamp-sf2017.com/>

●第27回 日本磁気歯科学会学術大会

会期：2017年11月11日(土)～12日(日)

大会長：高田雄京(東北大学大学院歯学研究科)

会場：ホテル大観荘

●第31回 日本口腔リハビリテーション学会学術大会

会期：2017年11月11日(土)～12日(日)

大会長：高橋浩二(昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座)

会場：昭和大学旗の台キャンパス

問合せ：昭和大学歯科病院口腔リハビリテーション科

TEL：03-3787-1151(内線382)

E-mail：31jaor@dent.showa-u.ac.jp

<http://www.jaor.jp/31thmeeting.html>

コンテンツ

委員会トピックス	1
優秀論文賞受賞者の声	2
若手研究者短期海外研修報告	2
診療トピックス	4
関連学会報告	4
関連学会のご案内	5

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 松山美和

委員 大木明子, 関谷秀樹, 中島純子,
堀 一浩, 宮本哲郎, 吉岡 文

E-mail：max-service@onebridge.co.jp